北山索道　搬器（はんき）

上り線の搬器と下り線の搬器が交差する

尾鷲湾と尾鷲の町並み、尾鷲停車場が写し出されている。
今はないせぎ山も撮影されている。

重量

尾鷲小学校蔵の『郷土教育資料』には以下のように記述されている。

「特許 9, 896 号玉村式索道搬器にして重量 27 貫（かん） 200 匁（もんめ）（※1）ありし之が運搬量は一搬器 54 貫（※2）、連結搬器 110 貫（※3）である」

※1　102 kg　　1 貫＝3. 75 kg
※2　約 203 kg　　1 匁＝3. 75 g
※3　約 413 kg

形・色

尾鷲市郷土資料室蔵

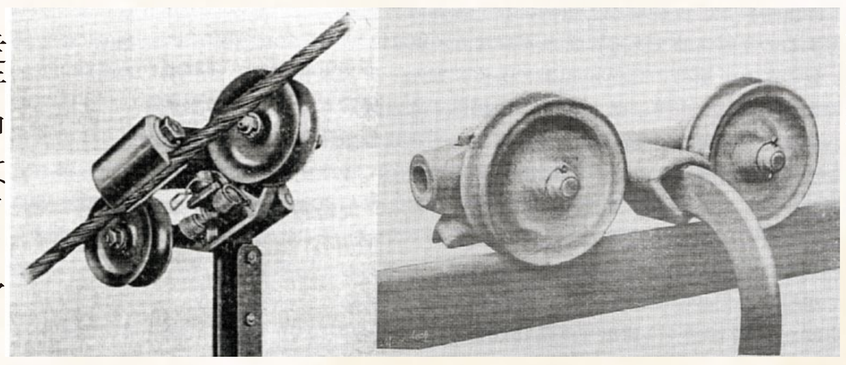
赤色に塗られた北山索道の搬器

上北（山）村寿会河合支部編『河合繁昌記（かわいはんじょうき）』の「北山索道の追憶（ことぶきかい）」では以下のように記述されている。

「シラサク（白川又索道）のハンキとキタサク（北山索道）のハンキは少し違っていた。シラサクは機体が少し小さ目で柄から荷受台に開く部分はやや曲線を画いて、人間の肩の線に似ていたが、キタサクの機体はやや大きく、荷受台に落ちる線は屋根の直線的な広がりを見せていた。シラクサの方は、黒に近い塗色で、キタサクの方は赤味を帯びていた」

玉村式握索機（たまむらしき　あっさくき）

搬器上部の握索機



走行中はワイヤーで移動

駅では滑車で移動（手動）

走行中は、上図左のように搬器上部のクリップがワイヤーを咥（くわ）えて移動し、駅舎では右図のように滑車が回転しハンガーレールの上を転がり移動する。‘半ぐわえ’といってしっかりワイヤーをはさみきれていない状態だと落ちる可能性が高く、しばしば落下する事故があった。